

新しい道・旧い道

(1)

朝比奈新道

山本秀男



新しい道はしばしば旧い道にそつて拓かれる。新しい道は拓かれた目的によつては風情を失う。反対に今迄閉ざされていた風景が私達の前に展げる場合もある。私達の探したいのは後者である。また旧い道はおいでいきぼりにされている。そのかわり昔ながらに残されているものもある。これも私達の探したい道である。「新しい道・旧い道」の欄を設ける意図もここにあるわけだが、この欄は読者の頁として開放したい。足で探したコースの紹介をお願い致したい。

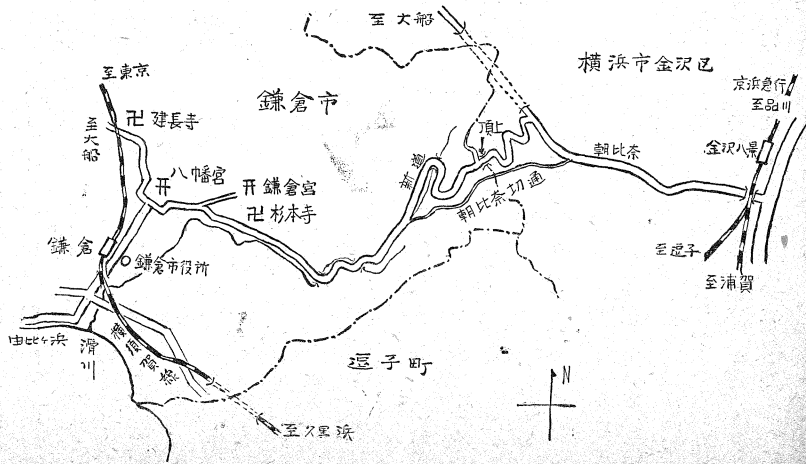
鎌倉から金沢八景へぬける新道がいついさきごろできあがつた。朝比奈切通の北に拓れた自動車道路がそれで、かりにその名を朝比奈新道と呼ぶことにしよう。廿万分の一の地図なら横須賀を開いてほしい。鎌倉の鶴ヶ丘八幡宮から金沢八景へ最短距離の道がある。これが有名な朝比奈切通である。新道は十二所(じゆうにそ)でこの道と別れ北上して直ちに登る。山肌を削りとつて拓かれた新道は

まもなくUターンする。ここから見降す鎌倉最奥の田畑はまことに寂かだ。もう一度Uターンすると道はいよいよ急勾配になるが、しばらくの努力で頂上に達することが出来る。ここまで八幡宮から約五軒の道のりである。あとは朝比奈まで快適なダウンヒルで、金沢八景まで一息でいける。だがダウンヒルを楽しむまえに一寸左への道を登りつめたい。

(編集部)

愛車を一押しすると右手に鉄筋コンクリートの廢屋がみえる。廢屋というにはあまりにも豪華なこの建物は訪ねる人々に奇異の念を抱かすに違いない。それはほどに曰くありげな建物だ。これは鎌倉の前山という仏像、工芸品などのコレクションの大家が、自らの秘蔵品の安全をはかるために建てた私設美術館であつたそうだ。戦争はここを高射砲隊の兵營として使つた。そして戦後心なき人々によつて窓枠などを持ち去られた。まことに荒れ果てている。しかしここからの眺めは、卅分前に八幡宮の前のレストハウスでコーヒを飲んでいたという事実が、まるで嘘のような寂さである。山肌は深緑につつまれ、鶯は樹の間隠れに美しく鳴く。遠く足許の谷から蛙の鳴声がきこえる。われわれさえ黙つていれば他に何物も音をたてない。鎌倉にかほどまで深い感じのする道があることは嬉しいことだ。

私達がこの道をつたつたのは五月廿七日で、鎌倉にNCTC会長菅沼達太道先生をお訪ねした帰りであるが、この道を教えて下さつたのは、ほかならぬ菅沼先生である。あとで先生から教えられたが、あの廢屋からも一息登ると尾根の上の大きな広場にでるそうである。東京湾と相模湖の見えるこの広場へは是非寄り来て、そこで休憩するとよいようだ。なおこのコースには坂東三十三ヶ所第一番杉本寺はじめ多くの見所があるが、菅沼先生がハイカー第八号に書いておられるから一読されるようお願いする。



金で一括して縛るなど、適当な施錠方法を講じた方がよい。

う大丈夫で、次々と太いものを加えてゆく。焚木を加える時は必ず枕木へ縦に並べること。縦横十文字に手当り次

キャンラフアイヤリのような大がかりな枯火は、川や海や湖沼のように充分水利の便がある場所以外では決してこれをしてはならぬ。